

## 日本体力医学会，体力科学オンライン投稿審査システム 新システム[J-STAGE3]への移行のお知らせ

平成22年4月1日よりスタートした体力科学オンライン投稿は，現在まで順調に運用されております。

オンライン投稿は，独立行政法人科学技術振興機構（JST）が構築したJ-STAGEのシステムを介して行なわれておりますが，現在利用している[J-STAGE2]の運用が平成24年3月31日で終了します。平成24年4月1日からの（JST）新システム[J-STAGE3]への完全移行に伴い，日本体力医学会としては，平成23年6月25日(土)から受付（本運用）を開始いたします。

新システムへの移行により会員の皆様，査読審査の先生方にはご不便・ご迷惑をおかけすることになりますが，多大なご協力をいただきたく何卒よろしくお願い致します。

日本体力医学会  
編集委員長 鈴木政登

## 日本体力医学会国際交流事業 2011年米国スポーツ医学会（American College of Sports Medicine:ACSM）参加助成者 決定のお知らせ

2011年5月31日～6月4日に米国・デンバーにて開催される表記学会の参加助成者対象者3名が決定いたしましたのでお知らせします。

参加助成者対象者は

若手研究者：小倉裕司 聖マリアンナ医科大学 医学部生理学教室

演題名：Adaptation of alpha-actinin isoforms to endurance exercise training in adult and old rat plantaris muscle  
大学院生：

1)山田達也 金沢大学人間社会環境研究科 運動生理学教室

演題名：Interaction of mitochondria and oxygen binding protein in skeletal muscles

2)岩本えりか 名古屋大学大学院医学系研究科 健康社会医学専攻

演題名：Decrease in blood flow to non-working limb during incremental exercise in hypoxia

採択者には日本体力医学会から参加助成金として100,000円が支給されます。

来年度以降も若手研究者・大学院生の皆様は是非挑戦してください。

## 日本体力医学会定例理事会（2011年1月）議事録

日 時：2011年1月21日（金）午後5時30分～7時30分

場 所：八重洲倶楽部第2会議室

議 長：吉岡利忠理事長

出席者：吉岡利忠，今泉和彦，碓井外幸，  
小野寺昇，勝村俊仁，栗原敏，  
坂本静男，佐藤祐造，下村吉治，  
鈴木政登，田中喜代次，永富良一，  
西牟田守，浜岡隆文，福永哲夫（各理事），  
成澤三雄（第65回大会長・千葉），  
江橋博（第66回大会長・山口），  
松岡敏男（第67回大会事務局長・岐阜），  
種田行男（将来構想検討委員会委員）

欠席者：荒尾孝，大野誠，加賀谷淳子，  
川原貴，小林寛道，下光輝一，  
田中宏暁，西平賀昭，森谷敏夫（各理事），  
小林康孝，能勢博（各監事）

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。また、議事録署名人として小野寺、勝村両理事が指名された。

#### 2. 評議員会長選挙の開票結果について（小野寺総務委員長）

配布資料により、平成22年11月9日に行われた評議員会長選挙の開票結果について報告がなされ、承認された。引き続き福永評議員会長から挨拶があった。

◎評議員会長 福永 哲夫氏

#### 3. 健康科学アドバイザー新規申請者について（碓井称号委員長）

第21回スポーツ医学研修会の修了試験合格者（21名）とアドバイザーへの申請者（9名）については前回理事会で承認済である旨と、今回追加で7名から申請書類が提出されている旨の報告がなされた。追加申請者7名の申請書類一式を確認した結果、資格は満たしているとの報告がなされ、承認された。

#### 4. 名誉会員の推薦について（小野寺総務委員長）

本年、選考が予定されている名誉会員の推薦について、総務委員会が推薦委員会を兼務するかたちでこれを実施することが提案され、承認された。

#### 5. 今後の理事会開催のスケジュールについて

今後の理事会開催のスケジュールが確認された。

◎2011年5月20日（金），◎2011年7月15日（金），

◎2011年9月15日（木），◎2012年1月20日（金）

### 【報告事項】

#### 1. 各種委員会報告

##### 1) 総務委員会（小野寺委員長）

- ・日本医学会より本学会に「利益相反に関する申し合わせ等」の確認依頼があったことが報告された。また、それに伴い、総務委員会内に「利益相反小委員会」を立ち上げ、細則の作成等の活動を行うこと及び将来的に同小委員会を常設委員会とすることが提案され、承認された。

- ・法人化に伴う本学会定款の修正作業を進める予定である旨の報告がなされた。併せて同作業にかかる必要経費を予備費から支出することが提案され、承認された。

- ・第68回大会（東京）大会長の選考について、下記：2点の提案がなされ、承認された。

① 次回（5月）理事会の開催前に大会長選考会議（参加予定者：吉岡理事長、総務委員会委員及び東京にある大学に所属されている理事）を開催する。

② 東京にある大学に所属されている理事を対象に大会長候補者の選考を行い、候補者を決定する。

##### 2) 編集委員会（鈴木委員長）

- ・「体力科学」誌の投稿について、現在までの投稿状況、オンライン投稿システムの問題点等について報告がなされた。

- ・オンライン投稿システム（J-STAGE）管理者の変更があった旨の報告がなされた。

- ・運動処方指針（原書第8版・南江堂）の翻訳状況について報告がなされ、2011年3月中に出版する予定である旨の報告がなされた。

##### 3) 渉外委員会（勝村委員長）

###### I) AFSM（アジアスポーツ医学会）

- ・2011年2月25日～26日にスリランカのコロomboで理事会が開催予定であり、勝村理事及び坂本理事が参加する予定である旨が報告された。

- ・第66回大会（山口）の国際セッションについて、「体力科学」誌内で、演題（国内）の募集を行っている旨の報告がなされた。

- II) FIMS (国際スポーツ医学会)  
 ・32回大会が2012年9月27日～30日にローマで開催予定である旨の報告がなされた。
- III) ECSS (ヨーロッパスポーツ科学会)  
 ・2011年7月6日～9日にイギリス・リバプールで開催される第16回ECSSにおいて行われる「ECSS-日本体力医学会合同シンポジウム」のシンポジスト募集を行ったところ7名の応募があり、現在選考を行っている旨の報告がなされた。
- IV) ACSM (米国スポーツ医学会)  
 ・本年5月31日～6月4日に米国・デンバーにおいて第58回ACSMが開催される旨及び同学会において特に優れた研究成果の発表を行う本学会会員への参加助成制度について、近日中に本学会HPにて案内の掲載を行い、募集を行う予定である旨の報告がなされた。
- 4) 学術委員会 (碓井委員長)  
 I) スポーツ医学研修会 (鈴木委員長)  
 基礎コースを7月1日(金)・2日(土)に、応用コースを8月5日(金)・6日(土)に、修了試験を8月7日(日)に慈恵医大新橋校で開催する予定である旨の報告がなされ、併せて講師の変更について報告がなされた。
- II) 称号委員会 (碓井委員長)  
 前回理事会において承認が行われた「スポーツ医学研修会の応用コース最終日に実施している修了試験の過去問題集」について、現在、作成を進めている旨の報告がなされた。
- 5) 倫理委員会 (吉岡理事長, 坂本委員長)  
 第65回大会(千葉)で行われた公開シンポジウム「体力医学研究の倫理と法」について、体力科学:59巻6号に講演記録が掲載された旨の報告がなされた。併せて、第66回大会(山口)においても倫理問題をテーマとしたシンポジウムの開催を行う予定である旨の報告がなされた。
- 6) 将来構想検討委員会(種田将来構想検討委員会委員)  
 第66回大会(山口)での理事会主催プログラムの企画案について説明が行われ、審議の結果、開催が決定された。
2. 第65回大会(千葉)の大会報告について(成澤第65回大会長)  
 資料の第65回大会実施及び決算報告書に基づき、参加登録人数(1,626名)、講演関係[発表706題(口頭発表180題、ポスター発表526題、他)]等の実施内容及び収支決算について報告がなされた。
3. 第66回大会(山口)の準備状況(江橋第66回大会長)  
 体力科学59巻1号に大会案内(第1報)の掲載を行った旨及び体力科学誌の発送を希望していない会員に大会案内(第1報)を郵送した旨の報告がなされ、併せてプログラム関係、参加費、事前参加登録のスケジュール、演題募集等について報告がなされた。  
 会期:2011年9月16日(金)-18日(日)  
 会場:海峡メッセ下関・下関市生涯学習プラザ
4. 第67回大会(岐阜)の準備状況(松岡第67回大会事務局長)  
 大会の準備状況、大会会場等についての報告がなされた。  
 会期:2012年9月14日(金)、15日(土)、16日(日)  
 会場:長良川国際会議場及び都ホテル(岐阜)

## 第152回日本体力医学会関東地方会開催のお知らせ

期日：平成23年7月16日(土) 13:30～  
 会場：國學院大學 横浜たまプラーザキャンパス  
 〒225-0003 横浜市青葉区新石川3-22-1  
 一般演題締め切り：平成23年6月18日  
 当番幹事：原 英喜（國學院大學 人間開発学部）  
 石山育朗（國學院大學 栃木短期大學 初等教  
 育学科）  
 TEL/FAX：045-904-7652  
 E-mail：hhara@kokugakuin.ac.jp  
 isiyama@kokugakuintochigi.ac.jp  
 特別講演：呼吸とは 本間生夫（昭和大学医学部）  
 シンポジウム：日常のなかの呼吸の大切さ

1. 生活のなかの呼吸
  - 1) 職場の中の睡眠時無呼吸について  
 笠原悦夫（JR東日本健康推進センター）  
 健康管理と公共輸送における安全
  - 2) 発声と呼吸 竹内京子（國學院大學）  
 模型を使ってメカニズムの説明
2. 運動と呼吸
  - 1) 弓射動作の呼吸 山田佳弘（國學院大學）  
 パフォーマンスに及ぼす活用
  - 2) 水泳の息継ぎ 原 英喜（國學院大學）  
 指導に生かすために

## 日本女子体育大学スポーツ栄養フォーラム2011

主 催：日本女子体育大学  
 後 援：女性スポーツ医学研究会  
 日 時：平成23年7月23日(土) 13:00～17:00  
 会 場：日本女子体育大学 E101 教室  
 テーマ：「女性競技者のためのコンディショニングにつ  
 いて考える」  
 13:00～13:10 開会挨拶  
 13:10～14:10  
 教育講演①  
 性差と女性の身体的特性  
 川端伊久乃（日本医大多摩永山病院医師）  
 14:20～15:20  
 教育講演②  
 女性競技者の月経とコンディショニング  
 中村真理子（JISS 研究員）

15:40～16:55  
 シンポジウム  
 女性競技者のコンディショニングについて考える  
 座長 目崎登（帝京平成大学）  
 シンポジスト  
 亀井良和  
 （日本女子体育大学講師 ハンドボール部指導者）  
 白木仁  
 （筑波大学教授 アスレティックトレーナー）  
 田口素子  
 （日本女子体育大学准教授 公認スポーツ栄養士）  
 参加費：1000円（当日受付）

問い合わせ先：日本女子体育大学田口研究室 村田浩子  
 〒157-8565 世田谷区北烏山8-19-1  
 FAX 03-3300-2263  
 taguchilabo@yahoo.co.jp

## 「遠山椿吉記念 健康予防医療賞」公募のご案内

対 象：日本を拠点に活動する個人の研究者または研究グループ  
 応募書類：所定の応募・推薦用紙、受賞候補者略歴、業績一覧、原著論文  
 応募期間：平成23年4月1日より6月30日（消印有効）  
 副 賞：賞金100万円  
 重点課題：平成23年度は、将来の予防医療のテーマに先見的に着手したものを重点課題とします。  
 詳しくは、財団法人東京顕微鏡院ホームページ<http://www.kenko-kenbi.or.jp/>をご覧ください。

**公益財団法人 上原記念生命科学財団**  
**平成23年度研究助成および海外留学助成等の交付対象者募集**

**1. 研究助成募集要項**

- (1) 助成対象課題—生命科学，特に健康の増進，疾病の予防および治療に関する次の諸分野の研究
- (イ) 栄養学，薬学一般，社会医学（含体力医学），東洋医学
- (ロ) 基礎医学（上記以外）
- (ハ) 臨床医学（上記以外）
- (2) 助成対象者—上記研究に意欲的に従事する日本在住の研究者で「3.応募方法その他（2）推薦者」の推薦を受けた者
- (注) 研究推進特別奨励金は，医学部（大学院医学研究科）と薬学部（大学院薬学研究科）に限る
- (3) 助成の種類および金額
- (イ) 研究助成金
- ◇年齢不問，単独研究でも共同研究でもよい
- ◇1件 500万円，助成件数 70件
- (ロ) 研究奨励金
- ◇若手研究者で昭和49年4月1日以降出生の者，但し医学部等6年制の学部卒業者は昭和47年4月1日以降出生の者
- ◇1件 200万円，助成件数 90件
- (ハ) 研究推進特別奨励金
- ◇医学部（大学院医学研究科）または薬学部（大学院薬学研究科）において平成21年4月以降に独立した研究室またはチームを立ち上げた，昭和41年4月1日以降出生の教授（特任教授，准教授は除く）
- ◇1件 400万円，助成件数 10件
- (4) 助成金の用途—研究に要する物品の購入その他研究推進に必要な費用とする

**2. 海外留学助成（上原フェロシップ）募集要項**

- (1) 助成対象者—研究助成と同じ課題の研究を行う研究者で次の条件を満たす者
- (イ) 研究助成と同様に「3.応募方法その他（2）推薦者」の推薦を受けた者
- (ロ) 原則として平成24年1月1日～12月31日の間に新たに海外留学に出立する者
- （但し，事情によっては年内に出立する者も対象とする）
- (ハ) 1年間以上の海外留学を受け入れる大学等学術機関が決定している者

(2) 助成の種類及び金額

- (イ) リサーチフェロシップ
- ◇研究奨励金と同じ若手研究者
- ◇博士号を有するか，またはそれと同等以上の研究業績を有する者
- ◇1件400万円以内の必要額，助成件数 約65件
- (ロ) ポストドクトラルフェロシップ
- ◇昭和53年4月1日以降出生の者，但し医学部等6年制の学部卒業者は昭和51年4月1日以降出生の者
- ◇助成期間中無収入の者
- ◇博士号を有するか，または平成24年4月までに取得見込の者
- ◇1件400万円以内，助成件数 約35件
- 尚，海外留学助成(イ)(ロ)の選考段階での成績優秀者に対し，2年間の助成を行う（詳細は本年度募集要項参照）

**3. 応募方法その他（研究助成および海外留学助成共通）**

※研究推進特別奨励金のみ推薦者が異なる

- (1) 応募方法—当財団ホームページの手順に従い応募する
- (2) 推薦者—
- (イ) 大学関係
- 総合大学：研究科長（または学部長）<sup>注1)</sup>
- 単科大学：学長
- 財団理事会が承認した大学附置研究所等：代表責任者
- 大学共通組織<sup>注2)</sup>（研究センター，研究施設等）：学長
- 注1) 薬学研究科，薬学部等同一の研究科，学部の場合はいずれか1件の推薦とする
- 注2) 原則研究センター長，施設長および病院長は推薦者となることができない
- (ロ) 大学以外の研究機関：当財団理事会が承認した研究機関の代表責任者
- ※研究推進特別奨励金：大学長（1大学1件の推薦とする）
- (3) 応募期間—平成23年6月10日～平成23年9月8日
- (4) 選考方法—選考委員会で選考し，理事会で決定する
- (5) 採否の通知—平成24年1月中旬に応募者宛通知する
- (6) 助成金の交付—平成24年1～3月間に贈呈する

#### 4. その他の助成金

##### (イ) 来日研究生助成

◇わが国の大学院の博士課程（前期/後期）に入学するために来日し、生命科学、特に健康の増進、疾病の予防および治療に関する研究を行う研究者で次の条件をいずれも満たす者（申請時点で大学院入試を受験していない者および合否が未定の者でも応募可とするが不合格となった場合は当財団へ申請取り下げの連絡が必要）

- (1) 日本以外の国籍を有する者
- (2) わが国における研究終了後帰国し、教育もしくは研究に従事する者
- (3) 他の奨学金、助成金を受けていない者
- (4) 1年以上の研究を行う者
- (5) 英語検定（TOEIC, TOEFL）または日本語検定を受検した者

◇月額15万円（助成期間は1年以上2年以内）助成件数 10件以内

◇応募期間—平成23年6月10日～平成23年9月8日

◇推薦者—大学長（1大学1件の推薦とする）

※応募方法、選考方法、採否の通知については上記「3.応募方法その他」と同じ

##### (ロ) 国際シンポジウム開催助成金

◇わが国で開催される国際的な研究集会に対する助成

◇応募期間—平成23年6月10日～平成23年9月30日

※詳しくは当財団ホームページをご覧ください

#### 5. 申請書提出先および連絡先

〒171-0033 東京都豊島区高田3丁目26番3号

公益財団法人 上原記念生命科学財団

TEL (03) 3985-3500, 8400 FAX (03) 3982-5613

E-mail: uehara-f@jade.dti.ne.jp

Homepage: <http://www.ueharazaidan.com>

## 公益財団法人 上原記念生命科学財団 第8回特定研究助成金の交付対象者募集

#### 1. 助成対象の研究課題

「革新的医療を創生する医学研究」

以下3分野を設定して申請を受けつける。

- (1) 先端医療開発への展開が有望で独創的な基礎医学的及び前臨床研究
- (2) 前臨床研究の成果から具体的な臨床応用に向けて研究途上の橋渡し過程の医学研究
- (3) 先端医療開発の創生に繋がる革新的手技や技術（外科的手技、機器、分子マーカーなど）に関する医学研究

#### 2. 研究助成方法

3年間の継続助成とし、助成金は次の通り交付する。

単位万円

	平成23年度	24年度	25年度	計
A. 採択約6件	500	500	500	1,500
B. 〃 約13件	300	300	300	900

3. 応募方法 当財団ホームページの手順に従い応募する。

4. 応募の締切 平成23年7月28日

5. 選考方法 選考委員会で選考し、理事会で決定する。

6. 採否の通知 平成24年1月中旬に応募者宛通知する。

7. 助成金の交付 初回は平成24年1～3月間に贈呈する。

8. 国際シンポジウムの開催 助成金受領者は平成26年（2014年）に国際シンポジウムを開催し、研究成果を発表する。

開催費用は当財団が負担する。

#### 9. 申請書提出先および連絡先

〒171-0033 東京都豊島区高田3丁目26番3号

公益財団法人 上原記念生命科学財団宛

TEL (03) 3985-3500 FAX (03) 3982-5613

E-mail: uehara-f@jade.dti.ne.jp

Homepage: <http://www.ueharazaidan.com>

# 日本医学会だより

JAMS News

2011年5月 No.45  
日本医学会

## ◆第78回日本医学会定例評議員会

平成23年2月23日に開催された。高久会長から、平成22年度年次報告、23年度事業計画の説明があった。引き続き、協議事項として、「日本医学会 医学研究のCOIマネージメントに関するガイドライン(案)の件」「第29回日本医学会総会役員人事の件」等が出され、承認された。また、本年度は「日本プライマリ・ケア連合学会」「日本手外科学会」の2学会の加盟が承認された。

## ◆第28回日本医学会総会

第28回日本医学会総会は、平成23年4月8日～10日、矢崎義雄会頭の下、「いのちと地球の未来をひらく医学・医療—理解・信頼そして発展—」をテーマに、東京で開催される予定であったが、3月11日に発生した東日本大震災の影響で総会のあり方を急遽見直すことになり、形態を変更しての開催となった。電子媒体やWebを活用してネット上での開催を予定している。

## ◆日本医学会加盟検討委員会

平成22年度第1回日本医学会加盟検討委員会は、平成22年11月10日に開催され、加盟申請の28学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。

平成22年度第2回日本医学会加盟検討委員会は、平成23年1月12日に開催され、審査方法についての検討を行い、2月23日の第78回定例評議員会に日本医学会加盟検討委員会報

告(平成21年3月)の新規加盟の審査基準の一部を改正する案を提出し、了承された。

## ◆日本医学雑誌編集者会議

平成23年3月2日に開催された第6回日本医学雑誌編集者組織委員会において、「医学雑誌編集のガイドライン」の作成を目的として、「第4回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第4回シンポジウム」を開催することが決定した。テーマ：医学雑誌編集のガイドライン、平成23年7月29日、13:00～16:00、日本医師会館小講堂で開催の予定。

## ◆日本医学会臨床部会運営委員会

臨床部会運営委員会は、日本医学会分科会の10の基本領域学会と2つの subspecialty 学会から委員構成されている。

運営委員会の下部組織には、専門医制に関する委員会、診療関連死に関する委員会等がある。

なお臨床部会会議、運営委員会等の議事録等は、本会のホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)に掲載しているので、ご覧いただきたい。

## ◆日本医学会臨床部会利益相反委員会

臨床部会利益相反委員会は、平成22年11月15日開催の第2回委員会にて、「日本医学会医学研究のCOIマネージメントに関するガイドライン(案)」についての議論を重ねた後に、12月6日に108分科会へガイドライン案を送付して、意見を求めた。平成23年1月21日開催の第10回日本医学会臨床部会運営委員会に

は曾根三郎委員長がオブザーバーとして出席し、ガイドライン案を説明した。

最終案はその後、2月23日開催の第78回日本医学会定例評議員会において説明され、分科会の了承を得た。なお、ガイドラインは本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/guideline/index.html>) からダウンロードできる。

### ◆日本医学会医学用語管理委員会

平成22年12月2日に平成22年度日本医学会分科会用語委員会を開催した。「英和辞典WEB版について」、第28回日本医学会総会登録者に配布予定の「日本医学会医学用語辞典CD-ROM版(2011年)について」、「和英辞典WEB版の仕様について」、第28回日本医学会総会時に開催予定であった「一般公開シンポジウムについて」等が主な議題であった。

### ◆第12回日本医学会公開フォーラム

「心の病—うつ病を中心として—」をテーマに、平成23年6月4日(土)13:00~16:00、日本医師会大講堂において開催する。組織委員長：樋口輝彦独立行政法人国立精神・神経医療研究センター理事長・総長。市民を対象とした公開フォーラムであり、参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/>) のいずれかの方法でお申し込みいただきたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、Web上にて映像配信する。

1. 序論 今日のうつ病—早期発見から社会復帰まで/樋口輝彦(独立行政法人国立精神・神経医療研究センター理事長・総長)。
2. うつ病はどのように診断されるか/神庭重信(九州大学大学院医学研究院・精神病態医学)。
3. うつ病の病態はどこまで明らかになっているか/山脇成人(広島大学大学院医歯学総合研究科・精神神経医科学)。
4. うつ病の治療はどのように進められるか/野村総一郎(防衛医科大学校・精神科)。
5. 社会復帰を目指すうつ病患者を、周囲はどのように支えれば良いのか?/尾崎紀夫(名古屋大学大学院医学系研究科・精神医学)

### ◆第140回日本医学会シンポジウム

「炎症性腸疾患—最近の進歩—」をテーマに、平成23年6月9日(木)13:00~17:00に、日本医師会館大講堂において開催予定。組織委員は、菅野健太郎、日比紀文、畠山勝義の各氏。参加希望者は、上記フォーラムと同じ方法でお申し込みいただきたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

序論/日比紀文(慶應義塾大・内科学)。

- I. わが国の炎症性腸疾患の疫学、病因、病態の最新情報
  1. 潰瘍性大腸炎/松本誉之(兵庫医科大・下部消化管科)。
  2. クロウン病/金井隆典(慶應義塾大・消化器内科学)。
- II. 炎症性腸疾患内科治療の進歩と課題(ガイドラインをまじえて)
  3. 潰瘍性大腸炎/上野文昭(大船中央病院)。
  4. クロウン病/渡辺守(東京医歯大・消化器内科)。
- III. IBD治療(内視鏡治療、外科治療)
  5. クロウン病の内視鏡治療(拡張術)の適応と限界/山本博徳(自治医科大・消化器内科)。
  6. クロウン病に対する外科治療の進歩/佐々木巖(東北大・生体調節外科)。
  7. 潰瘍性大腸炎に対する外科治療の適応とその進歩(Colitic Cancerを含む)/渡邊聡明(帝京大・外科学)

### ◆医学賞・医学研究奨励賞

平成23年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞(旧医学研究助成費)の推薦依頼を日本医師会雑誌の5月号に公示。要項は本会に問い合わせいただきたい。受付期間は、5月15日~7月5日。推薦書は、公示日より日本医師会ホームページ (<http://www.med.or.jp/>) からダウンロードできる。

### ◆日本医学会への加盟申請

平成23年度の日本医学会への新規加盟申請は、5月15日に公示(日本医師会雑誌等)し、7月31日に締め切る。申請書は、公示日より本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/>) からダウンロードできる。



## 第19回日本発汗学会総会のご案内

1. 会 頭：岩瀬 敏（愛知医科大学生理学教授）
2. 会 期：平成23年9月2日(金)，3日(土)
3. 会 場：愛知医科大学  
（JR名古屋駅から地下鉄東山線，終点藤が丘駅にてスクールバス20分）  
〒480-1195 愛知郡長久手町大字岩作字雁又21  
TEL: 0561-62-3311
4. プログラム：
  - 1) 特別講演 「神経疾患と発汗異常」
  - 2) シンポジウムとワークショップ
    1. 手掌多汗症の治療法，ETS（胸腔鏡下交感神経切除術）とボトックス（ボツリヌス毒）
    2. 運動時の体温調節を発汗の面から検討するワークショップ
    3. 環境生理，環境工学の研究者による環境と発汗のシンポジウム
    4. 皮膚交感神経活動と発汗
  - 3) 一般演題
  - 4) 機器展示
5. 演題募集：一般演題を募集いたします。  
総会ホームページ：  
<http://www.aichi-med-u.ac.jp/hakkan/>  
演題登録(問い合わせ)先：  
hakkan@aichi-med-u.ac.jp
6. 総会事務局  
〒480-1195 愛知郡長久手町大字岩作字雁又21  
愛知医科大学生理学講座  
TEL: 0561-62-3311(内線2212) FAX: 0561-63-9809  
E-mail: hakkan@aichi-med-u.ac.jp
7. 応募資格：演者並びに共同演者は日本発汗学会の会員に限ります。非会員の方は下記の学会事務局まで連絡のうえ，入会の申し込みをお願いいたします。
8. 日本発汗学会事務局  
〒390-8621 松本市旭3丁目1-1  
信州大学医学部器官制御生理学講座内  
日本発汗学会事務局  
TEL: 0263-37-2597 FAX: 0263-36-5149  
E-mail: jspr@shinshu-u.ac.jp

## 「第28回筋肉の会」・「第28回筋電図の会」のご案内（第1報）

「第28回筋肉の会」，「第28回筋電図の会」を下記の通り，下関市で開催致します。どうか奮ってご参加頂くと共に，関係各位へお知らせ頂きますようご案内申し上げます。なお，詳細（発表者，演題名，懇親会等）については第2報（体力科学60巻4号，8月1日発行）に掲載する予定です。

日 時：平成23年9月15日(木)

第66回日本体力医学会大会前日

15：00～17：00

会 場：調整中

参加費：1,000円(事務連絡費，会場費，AV機材借用費等)  
研究会の当日，受付にて申し受けます。

懇親会：研究会終了後に「筋肉の会」と「筋電図の会」の合同で行う予定です。詳細につきましては第2報で改めてお知らせいたします。

世話人：「筋肉の会」

東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座  
座体力医学研究室 山内秀樹

〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1

TEL：03-3480-1151 内線2445

FAX：03-3480-4591

e-mail：yamauchi@jikei.ac.jp

「筋電図の会」

千葉大学教育学部保健体育教室 小宮山伴与志

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL：043-290-2621, FAX：043-290-2519

e-mail：komiyama@faculty.chiba-u.jp

## CEP Japan in Yokohama ～臨床運動指導専門家の社会的台頭を目指して～

日本国内におけるCEP（Clinical Exercise Physiologist：臨床運動指導士）の社会的台頭を目指す研究会を障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」にて開催いたします。

医療や健康づくりの第一線で活躍する健康運動指導士、理学療法士、医師の方々をお招きし、「運動指導専門家の確かな役割や社会的台頭に向けて具体的にどうはたらきかけていくのか？」をテーマとしたシンポジウムを予定しております。

【日 時】2011年8月28日(日) 13:00～16:00

【会 場】障害者スポーツ文化センター  
「横浜ラポール」大会議室  
横浜市港北区鳥山町1752

【参加費】無料

【プログラム】

1. 会を開催するにあたってのご挨拶 13:05～13:10  
筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授  
田中 喜代次
2. 米国CEPとの連携について現状報告 13:10～13:30  
大阪産業大学人間環境学部スポーツ健康学科  
佐藤 真治
3. シンポジウム「運動指導専門家の社会的台頭を目指して」  
座長：NPO法人日本健康運動指導士会 事務局長  
荒俣 忠志

①健康運動指導士の立場から 13:30～13:55

(株)THF 取締役 (株)THF プログラムディレクター  
小澤 多賀子

②高齢者体力づくり支援士の立場から 14:00～14:25

医療法人八千代会 八千代病院 健康増進センター  
藪下 典子

③心臓リハビリテーション指導士の立場から 14:30～14:55

順天堂大学医学部付属順天堂医院 健康スポーツ室  
大西 朋

④医師の立場から 15:00～15:25

関西医科大学医学部教養学部健康科学 教授  
木村 穰

⑤総合討論 15:30～15:55

閉会 16:00

【主催・お問い合わせ】

CEPを考える会（CEPA Japan）事務局  
大阪産業大学人間環境学部スポーツ健康学科  
佐藤 真治  
E-mail: shinjisato2005hawaii@yahoo.co.jp  
Tel: 072-875-3001 / Fax: 072-875-3029

【会場アクセス】

JR横浜線「新横浜駅」（北口）・横浜市営地下鉄「新横浜駅」（8番出口）から徒歩約10分

# 編 集 後 記

3月11日の夜、寒さに震えながら見上げた空は、いままで見たことがないくらいの満天の星空でした。

この日、研究室でいつまでも続く大揺れに襲われました。おしまいだと思いました。気がつくとケガもなく、よく建物が倒れないで済んだものだと思います。携帯で家族に連絡をとろうと思っても全く通じません。非常ベルがなりひびき本棚から飛び出した本や資料に埋まった研究室と倒れた冷凍庫や実験器具で足の踏み場もない実験室で教室員の全員の無事を確認。ガスの元栓の確認後、全員で建物を退去しキャンパス中央にある事務室に向かいました。雪がちらつく中、各研究棟から少しずつ人があふれ出し、3時半ごろにはようやく災害対策本部が設置されました。キャンパス内全員の無事が確認され、行き場のない職員や学生のために体育館を避難所として利用することを決め移動しました。

ラジオからは仙台市沿岸部の町が大津波に襲われ200名以上の遺体が見つかったという信じられないニュースが聞こえてきます。耳を疑いました。午後6時ごろようやく自宅マンションに向かいました。建物が倒壊した神戸の震災を思い出し祈るような気持ちでした。信号が消えた道では車があちこちで渋滞し破裂した水道管から水が高く噴き出しているところもありました。東方の空には真っ黒なきのこ雲が立ち上っていました。あとから知りましたが、コンビナートが火事でした。

マンションが無事に建っているのが遠目に見えたころ、ようやく家族からメールが届き、飼犬も含めて全員無事だということがわかりました。自宅マンションはほとんどの壁に亀裂が入り悲惨な状況でした。駐車場に待避していた家内と次女のようにやく会うことができ無事を喜びあいましたが、7階の自宅は倒れた家具とガラスに埋まり足の踏み場もありませんでした。途方にくれながら指定避難所である隣の中学校の体育館に移動しました。

あれから3ヶ月、一週間の避難所生活を経て知人宅に4月一杯まで身を寄せ、今では応急処置をほどこした自宅マンションに戻っています。5月からは大学の授業もはじまり平常に戻つつあります。しかし大学全体では1000億円を超える被害を被りました。親しかった方が何人も津波で犠牲になりました。

振り返るとこれほど教育者として研究者としてまた人間として何をどうしたらよいか真剣に問われた日々はありませんでした。避難所生活者の深部静脈血栓症、廃用症候群あるいはサルコペニアの予防のためには体を動かすことを特に高齢者の方々に伝えなければいけない。これまで一緒に仕事をしてきた運動指導に関わってきた仲間たちと避難所を回りましたが、当初はそれどころではない。水も食べ物もないのに何を考えているんだとおしかりを受けたこともありました。ニーズはあってもプライオリティが他にありました。冷静に考えれば当然ですが、情報が錯綜していました。伝聞で動かざるを得ない。被害の状況も全谷が攔めるようになってきたのは1ヶ月以上経ってからでした。情報をあらゆる手段で得て、よく吟味して、何が必要なのか仮説をたて、それを実行に移していくのはまさに一つ一つが研究を行い論文としてまとめていくプロセスそのものでした。受け売りの背景は通用しない。自分たちの足で集めた情報に基づいてどこにどのようなニーズがあるかを真剣に考える日々が続いています。同時にこれまでの自分の研究で何が大事だったのかをあらためて問い直しています。体力科学には多くのすばらしい研究が論文として掲載されています。願わくは、私たちも含めて一つ一つの研究が真剣に自分の問題として取り組まれている研究であってほしい。研究の一つ一つが真剣にその意義を社会に訴えかけられるようになっていくことがその価値を高めていくことになるはずです。たくさんの方から何か被災地のためにできないかとの暖かいメッセージをいただきました。なかなか明解なご返事ができないでいました。しかし一言えることは皆さんが行っている研究を真剣に進めていただくことが直接ではないにしても結局、被災地の復興・復活につながっていくのではないのでしょうか？小さな力をつなぎ大きな輪になるような共同研究が実現していくことも重要だと思います。

この3ヶ月、国内外から多くの応援や励ましのメッセージをいただき、たくさんの方のお世話になりました。言葉では尽くせませんが、あらためて心から御礼申し上げますとともに、犠牲になられた多くの方々のご冥福をお祈りします。

東北大学 永富良一

## Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol. 60, No. 3

### 体 力 科 学 第 60 卷 第 3 号

平成 23 年 5 月 25 日 印 刷

平成 23 年 6 月 1 日 発 行

編 集 兼 発 行 者

鈴 木 政 登

発 行 所

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階

一般社団法人 学会支援機構

日本体力医学会

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内

「体力科学」編集事務局

TEL・FAX(共通) 0235-22-3120

E-mail: hj-tairyoku@turui.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社